

弱含みの緩やかな回復基調

しがきん経済文化センター(産業・市場調査部)



湖北夕景 遠くにエリとつづら尾崎を望む／長浜市

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、電気機械や化学、プラスチック製品、食料品などで堅調なため、原指数、季節調整済指数の両指数ともに上昇した。また、季節調整済指数の3か月移動平均値は前月に続きプラスとなり、水準は8か月ぶりに100の水準を超えた。

需要面では、百貨店・スーパー販売額はウエートの高い飲食料品をはじめほとんどの品目で前年を上回ったため、全店ベースでは3か月ぶり、既存店ベースでも2か月ぶりのプラスとなった。また、大型店の中のドラッグストアの販売額は引き続き好調に推移し、乗用車の新車登録台数は4か月連続で前年を上回っている。さらに、新設住宅着工戸数は持家が4か月連続、貸家が4か月ぶり、分譲住宅も3か月連続のそれぞれプラスとなったため、全体では2か月ぶりに前年を大きく上回った。一方、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は2か月連続の低水準かつ大幅マイナスと伸び悩み、公共工事の請負金額は2か月ぶりに前年を大きく下回った。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は前月に比べ上昇したものの、有効求人倍率は3か月間、同じレベルにとどまっている。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は一部の堅調な業種がけん引し、全体の水準はやや上向いている。一方、需要面では個人消費や住宅投資では堅調な動きがみら

れるものの、民間設備投資や公共投資では引き続き力強さに欠けた状態にある。したがって県内景気の現状は、引き続き弱含みの緩やかな回復基調にあるものと考えられる。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、猛暑効果から関連業種では前向きな動きがみられるものの、円高水準の定着と新興国の景気低迷の影響から輸出関連業種を中心に生産調整に入るなど弱含みの動きとなるため、全体的に横ばいの展開が続くものとみられる。また、需要面では、一部で堅調な動きがみられるものの、家計収入の伸び悩みや景気の先行き不透明感などから、全体的に力強さに欠けた状態が続くと思われる。したがって今後の県内景気は、緩やかな回復基調にあるものの、足踏みの状態が続くものと考えられる。

京滋の景気動向

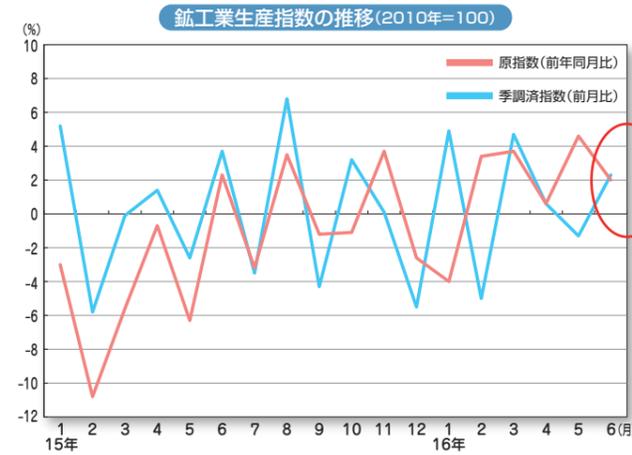
京都府・滋賀県の景気は、基調としては回復を続けている。

個人消費は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては底堅く推移している。設備投資は、緩やかに増加している。住宅投資は、持ち直しつつある。公共投資は、減少している。生産は、緩やかに増加しつつある。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。労働需給は引き続き改善しており、雇用者所得も緩やかに増加している。

【日本銀行京都支店：「管内金融経済概況」(9月8日発表)より】

「鉱工業生産指数」は両指数とも上昇

2016年6月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は111.6、前年同月比+2.0%で5か月連続の上昇、「季節調整済指数」は101.2、前月比+2.3%で2か月ぶりに上昇し、両指数ともに上昇となった。季節調整済指数の3か月移動平均値(5月)は100.1、前月比+0.5%で前月に続きプラスとなり、水準は8か月ぶりに100を超えた。業種別(中分類)に季節調整済指数の水準をみると、「鉄鋼」や「窯業・土石製品」などは引き続き低水準となっているものの、「化学」や「食料品」「その他」などは高水準が続いている。また、前月と比べると、「金属製品」や「はん用・生産用・業務用機械」「輸送機械」などは低下したが、「電気機械」や「プラスチック製品」「食料品」などは上昇した。



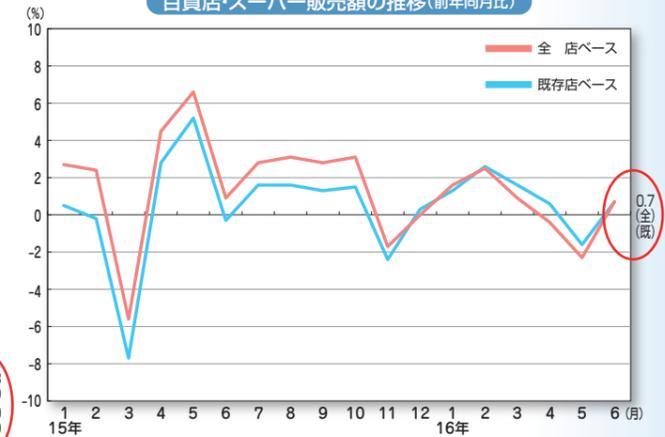
「百貨店・スーパー販売額」(全店ベース)は3か月ぶりのプラス

6月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は96店舗)」は22.631百万円、前年比+0.7%と、3か月ぶりのプラスとなった。品目別にみると、ウエートの高い飲食料品が再びプラス(同+0.9%)になったことに加え、衣料品(同+1.2%)は8か月ぶり、家庭用品(同+3.6%)と身の回り品(同+2.9%)はともに3か月ぶり、家電機器(同+8.5%)は2か月連続のそれぞれプラスとなった。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高は、家庭用品が9か月連続のマイナスとなっているものの(同-0.9%)、他の品目が比較的堅調に推移したため、全体では2か月ぶりのプラスとなった(同+0.7%)。

また、「家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター販売額(全店ベース=店舗調整前)」によると、6月の「ドラッグストア」(165店舗)は4.997百万円、前年同月比+11.5%で15か月連続のプラスとなり、好調に推移している。一方、「家電大型専門店」(38店舗)は3,105百万円、同-0.3%、「ホームセンター」(63店舗)も3,222百万円、同-2.9%で、ともに2か月連続のマイナスとなり、伸び悩んでいる。

7月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「普通乗用車(3ナンバー車)」が4か月ぶりに前年を下回ったものの(1,621台、前年同月比-1.1%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」が2か月ぶりのプラスとなったため(1,456台、同+4.2%)、2車種合計では4か月連続のプラスとなっている(3,077台、同+1.4%)。「軽乗用車」は昨年4月からの増税の影響に燃費改ざんの影響が加わり、10か月連続のマイナスとなっているが、マイナス幅は大きく縮小した(1,617台、同-0.1%)。

百貨店・スーパー販売額の推移(前年同月比)

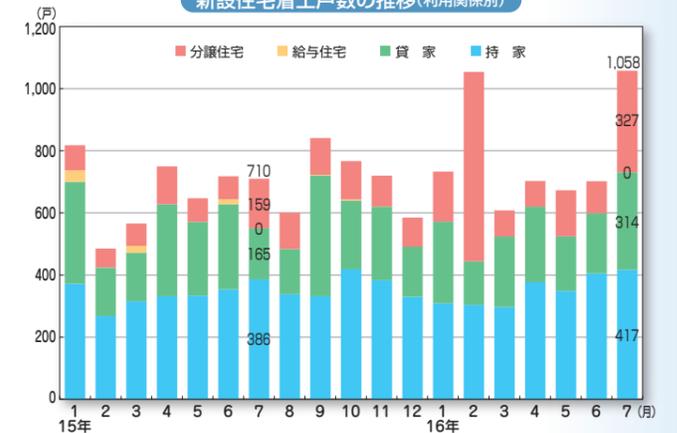


「新設住宅着工戸数」は2か月ぶりの大幅プラス

7月の「新設住宅着工戸数」は1,058戸、前年同月比+49.0%で、2か月ぶりの大幅プラスとなった。

利用関係別で見ると、「持家」は417戸、同+8.0%(大津市86戸、彦根市50戸、東近江市47戸など)で4か月連続のプラス、「貸家」も314戸、同+90.3%(守山市64戸、大津市56戸、草津市54戸、東近江市47戸など)で4か月ぶりの大幅プラスとなった。さらに「分譲住宅」は327戸、同+105.7%(大津市263戸など)で3か月連続の大幅プラスとなっている。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は3か月ぶりに前年を下回ったが(88戸、前年差-6戸)、「分譲マンション」が5か月ぶりの大幅増となった(239戸、同+174戸)。なお、「給与住宅」は8か月連続で申請がなかった。

新設住宅着工戸数の推移(利用関係別)



県内景気 天気図

現在の景気 生産活動



個人消費 民間設備投資



住宅投資 公共投資



雇用情勢 3か月後の景気



凡例



前月比

